

第4回 斐伊川放水路環境モニタリング協議会 議事要旨

日 時 平成30年2月28日(水)

13:30~15:30

場 所 出雲河川事務所

| 指摘事項 | 回答 |
|---|---|
| ワンドの魚類調査について、優占種のその個体数を記載してはどうか。 | 検討して御提示できればと思います。 |
| ワンドの魚類調査について、浮出稚魚を対象として4~5月に実施してみてもどうか。 | 特別採捕等の問題はありますが、検討したいと思います。 |
| 最近、オオカナダモ、エビモ、ヤナギモ類等が非常に繁茂していて、場合によっては漁業にも影響しているという話も聞くが、どう考えているのか。また、今回の調査では量的な整理が余りされてないので、変化が見えない。 | 対応を勉強しているような段階ですので、具体的なことは言えませんが、対応については、またそういう全国的な動向や、意見交換等を踏まえて考えていきたいと思っています。 |
| 上流の馬木の産卵場から、神戸堰を流下するのに時間がかかり、十分に流下できないおそれが高いと思っている。そういう影響が出ているということが明らかになれば、いろんな対策が考えられるのか。 | これまでの調査で、夜に上流域であったピークが、下流域に朝方ピークが確認されているため、流れていることは事実なので、循環はできているのかなと思っています。一方でアユというのは当然水産資源なので、量的な問題は、神戸川アユ再生の会議で手法を検討しているところです。割り切り方としては、この環境モニタリングの協議会としては、そうしたサイクルが成立してればよしとしていただいて、これをどう増やすかについては、県のほうのアユ再生会議のほうに委ねたいと思っています。 【他委員の意見】 アユが上流でたまっていて、それが影響するというのも、断言できない部分もある。 |

| 指摘事項 | 回答 |
|---|---|
| <p>「新内藤川、導流堤をもう少し延ばせばいいんのでは」というような意見もあるが、そんなことが検討されたことがあるか。</p> | <p>「堤防自体、導流堤のように海のほうに出して、閉塞対応する」というよう検討も昔からされていますが、海岸侵食や塩分が微妙なバランスで保たれているとかあるので、河口閉塞に対し、掘削等を適宜する形で対応しています。</p> |
| <p>神戸川で海から上がってくるアユと放流したアユの割合がどうなのかいうのを把握すると良いと思う。</p> | <p>報告書レベルまで分析するとき、うろこの数と顎の下の間隔孔の数で分析しています。</p> |
| <p>漁獲量が減ってきているんだけど、その原因はいろいろ考えられる。その辺の基本的なことを水産サイドの技術屋がやらないといけないことだと思う。</p> | <p>—</p> |
| <p>アジア地域のタイワンシジミ種群などの分類について、形態的特徴などから同定することは現状では非常に難しい。本当はその辺を明らかにしないと、いつまでもシジミ属というわけにはいかないと思う。形態的な分類などについて目星があるならば教えてもらいたいし、その根拠も教えてもらいたい。</p> | <p>今のところはないようです。</p> |
| <p>天然由来か放流なのかについては、十分な調査はまだできてない。一部はやられているんですが、私が持っている情報では、神戸堰なんかで調査したもののほとんどが放流だったというのを聞いている。</p> | <p>【他委員の意見】 神戸川は昔から、放流のウエイトが大きい。アユを減った原因を追究すべきであるが、国交省の仕事ではないと思う。原因は神戸堰だけでなく、全体を見て、全体で考える必要があると思う。</p> |
| <p>河口閉塞とフラッシュの関係について、神戸川の通常時の流量で河口の砂をフラッシュさせる事を想定していると思うが、大きくはフラッシュしないと思う。</p> | <p>大きな出水があればフラッシュすると考えています。通常時の流量で河口閉塞する場合は、人工的に国土交通省が維持管理で掘削をする形で対処しています。</p> |

| 指摘事項 | 回答 |
|---|---|
| <p>AW4が今年、結構縮小傾向にあるが、河床材料調査結果から考えると、堰の下流は粗粒化していった細かい土砂が流れ、AW4みたいなところでトラップされていると思う。</p> <p>このため、AW4は将来的に消えてしまう可能性があるが、何かそれを今後国土交通省として手をかけていくとかは考えているか。</p> | <p>神戸堰の下流部分の掘れた土砂が下流のほうに流れていっていることがワンドを狭めている、埋めていっている要因の一つであることは間違いないと思っています。神戸川は現在、安定的な形を求めて変化している状態だと考えています。</p> <p>AW4を、この地点で、この場所でこの形を維持するというのはなかなか困難で難しいことだと思っており、ワンドについては自然の成りに任せていかないと考えています。</p> <p>ただし、生態系ネットワークの協議会で、今後このAW4周辺の部分についても、整備計画を検討していく予定です。</p> |
| <p>地域の特徴を論じるときに重要種だけではなく、優占種を上げて、優占する種がどうなっているか、一体何が優占しているかを論じるのが大事だと考える。</p> | <p>まとめるに当たって参考にさせていただき、神戸川の特徴が出せるようなまとめ方にしていきたいと思います。</p> |
| <p>1巡目から5巡目のまとめの報告をつくられると思うが、その時には過去の調査結果を地点毎に用いて、事前事後の結果がうまく反映できるようなまとめとしてもらえると思う。</p> | <p>当時の調査と、このモニタリング調査では、同様な調査内容ではないので、完全な比較はできないと思います。定量的な比較というのは難しいのですが、できる範囲で検討してみます。</p> |
| <p>オオフサモの群落が新たに見つかって除去をしてくださったという話で、非常に迅速な対応をしていただけてありがたい。オオフサモは気にしていた外来の植物群落であった。</p> <p>また来年も、沈水植物の調査であるとか、河川の植生図の調査があるので、気にしていただくとうれしい。</p> | <p>承知しました。</p> |

| 指摘事項 | 回答 |
|---|---|
| <p>St. 8について、去年まであったコカナダモの群落をツツイトモが覆うような形でとまっていることについて、興味がある。来年の状況も少し気にしておいていただくとありがたい。</p> | <p>承知しました。</p> |
| <p>ワンドによって大分優占している群落が違うという報告があったが、地形と見比べてみると、確かに地形を反映した調査結果を得ている。大型水鳥の生息環境を創出するうえでの、ベースになるような資料だと思うので、そういう視点で5カ年の調査結果をとりまとめていただくと、次の河川管理であるとか、ほかの事業に応用できると考える。</p> | <p>承知しました。</p> |
| <p>アユの産卵場調査について、産卵時の調査が漁協要請により、あまりできてない。現状でどういう環境が良いかはある程度調査でわかっているのですが、難しいかもしれないが、そういう産卵場を近くにつくって、そこで調査やれたら良いと思う。国交省が実施すべき項目かはわからないが。</p> | <p>【他委員の意見】 国交省の立場でどこまでできるかというのは色々課題があるが、実際に今の産卵場の上流部で少し河川の石をいろいろ動かしてもらって産卵場づくり的なことをやっていたらいい。</p> |
| <p>今日まで4回の協議会が終わったわけですが、各委員の意見や指摘にも対応いただいて、すごく順調に来てるんじゃないかなと、個人的には思います。あと残すのは1年になりましたが、本当しっかり調査していただいて、それで、場面場面ではそれぞれの専門家の意見を聞く必要が出てくるかと思っておりますので、そのときには各専門の先生方に意見を求めながら進めていただければと思います。</p> | <p>—</p> |